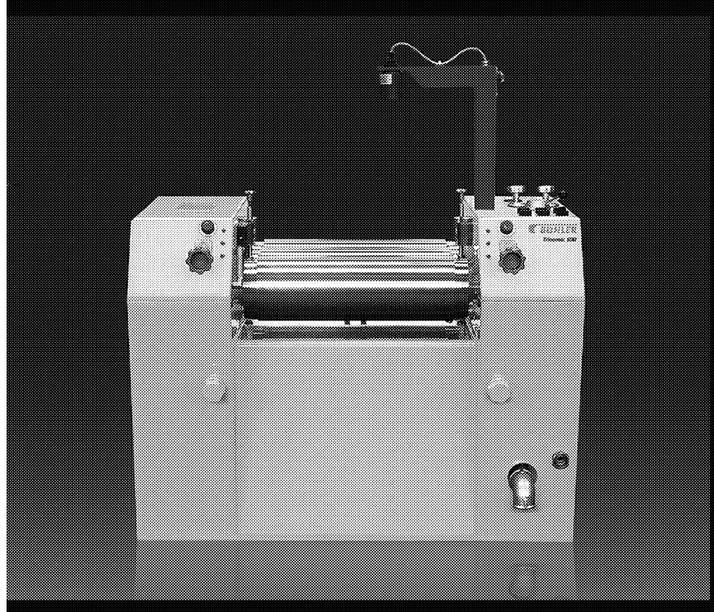
Trinomic™ 600：ロールミルの新基準

高粘度ペースト製品に最適な汎用3本ロールミルTrinomic™ 600は、電子材料や各種インキ、化粧品等の製造に求められるコストパフォーマンスと再現性を高次元で提供いたします。

ビューラー株式会社　〒222-0033　横浜市港北区新横浜3-22-11
Tel. 045-477-3000　Fax. 045-477-3030　Email: buhler.japan@buhlergroup.com　www.buhlergroup.com



Trinomic™ 600

生産性：高効率のロール冷却システムを搭載し、高い処理能力を実現。

耐久性：堅牢で定評あるデザインにより、製品の長寿命化と高い品質を確保。

汎用性：ロール間隙調整装置で間隙を任意に設定でき、幅広い製品粘度に対応。

操作性：容易にプロセスパラメーターが変更でき、短時間で設定が可能。

Innovations for a better World.　BÜHLER

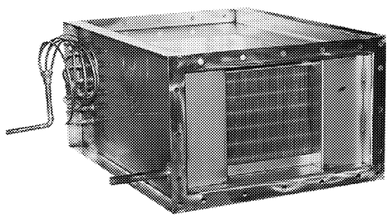
豊富な実績とノウハウ
国内および、世界各国の各種産業分野で豊富な納入実績を持ちます。

KATSUKAWA

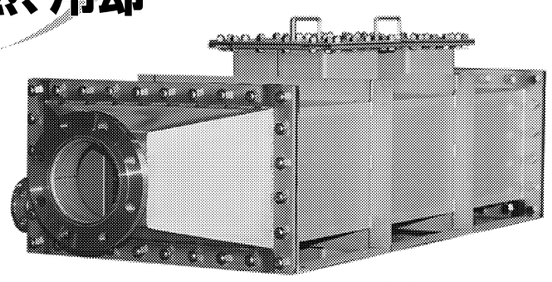
生産設備の頼れるパートナー　*http://www.katsukawa.co.jp*

製造ラインに最適な設計の熱交換器をご提供します。

弊社は産業用熱交換器の設計・製作を行っており、工業製品の加熱、冷却を行う乾燥機、冷却/除湿機の中に使用されるヒーター＆クーラーにおいては豊富な設計経験/納入実績がございます。
粉体における熱交換器ユニットでは食品・医薬品・化学製品の製造ラインに最適な選定、設計をし、低コストでのご提供をさせて頂きます。
また、機器配管設計/製作を含む熱交換器の撤去/設置工事なども行っており、より信頼のおけるプラントを構築して頂けるお手伝いもいたしますのでお気軽にご相談下さい。



工業製品の加工時における
加熱、冷却



[直膨用プレートフィンチューブ型]
■材質：ALL SUS304

[乾燥用エロフィンチューブ式加熱器]
■材質：ALL SUS316L

営業品目
- 産業空調用熱交換器
  乾燥/加熱装置用・除湿/冷却装置用・溶剤/排熱回収用・各種産業生産設備用
- 工場、施設暖房用熱交換器
- シェル&チューブ型熱交換器
- 船舶/特殊車両用熱交換器
- 各種製缶品、金属加工、組立（ダクト・架台・フィルターBOX）
- 熱交換器用材料全般（炭素鋼/ステンレス/非鉄金属/チタン等、特殊金属）
  配管部品/継ぎ手類
- 空調コイル取換え工事一式

産業用熱交換器専業メーカー
勝川熱工株式会社
本　社　〒578-0911 東大阪市中新開2丁目13番46号
TEL072(966)2751(代) FAX072(966)3056
E-mail:info@katsukawa.co.jp
http://www.katsukawa.co.jp
営業部・工場　〒578-0921 大阪府東大阪市水走5丁目2番32号
TEL072(967)2255　FAX072(967)2256
JAB QMS CM 011　JQA Japan Boiler Association 登録番号 034

協会活動 今後の取り組み
「大阪展 2013」みどころ

若手人材の育成に全力
基礎技術、継承・発展狙う

日本粉体工業技術協会　大川原 武会長

10月9日から開幕する「粉体工業展大阪2013」。材料開発の基盤テクノロジーである粉体技術に関する最新鋭機器や先端技術が結集する。好転する景況感を背景に、出展小間数が前回（11年大阪）展を上回る勢いをみせるなど、その技術進化に期待が集まる。そこで、「若手人材の育成を通して粉体の基礎技術を継承していきたい」と語る日本粉体工業技術協会の大川原会長に、協会活動の現状や今後の取り組みを聞いた。また、大阪粉体工業展委員会の菅原一博委員長に同展開催の狙いや見どころをたずねた。

◁◀◁ ―粉体技術が関係する業界の景況感はいかがですか。

「国内景気は、前年度後半からの円安基調による株価上昇や輸出環境の改善、金融緩和政策などから明るい兆しが見られる。当協会は粉体機器・装置メーカーおよび販売会社をはじめ材料、化学、食品、薬品、鉱業などの粉体を取り扱う企業、建設・エンジニアリング事業など粉体技術に関する企業、官学界の学識経験者などで構成。広範な産業の基盤技術として受ける景況感はさまざまながら、一般的に機器や装置メーカーはおおむね半年から1年遅れで景気の変化を実感すると言われる」

―粉体関連技術における研究・開発動向は。

「当協会が取り組んでいる『ユーザー視点と実際の設計に役立つ分科会活動』および『ナノ物質への検討・対応』は昨年からの継続課題。前者は各分科会が定性的な現象の定量・規格化を進め、洗浄性や安全性などユーザーに役立つ技術情報を収集し発信していく。後者はナノ粒子の利用面とナノ物質のリスク面で、関連する分科会や委員会を中心に討議を重ねている。ナノ物質検討委員会が中心となり、製造ラインでのリスク管理チェックリストを作成。リチウムイオン電池などの原料微粒子や製造プロセスの現状を把握し、課題抽出と問題定義に取り組む」

―「粉体工業展大阪2013」への出展申し込みが盛況だった聞いています。

「大阪展は今回で10回目の節目の開催となる。出展は179社・団体、573小間と、11年開催した前回の大阪展を上回る規模となった。東京出展に力を入れる企業が多い中、中部圏から九州圏へ視野を広げ、粉体技術を必要とする広範な産業界へアピールし成果をあげて頂きたい。そのため粉体工学会秋期研究発表会やAPPIE産学官連携フェア2013の併催事業をはじめ多様な魅力的イベントを用意した」

―今後の協会活動で重要になる取り組みは何ですか。

「粉体技術各プロセスにおける『基礎技術の継承と発展―若手の人材育成』をメーンに掲げている。人材育成委員会が進める〝若手の集い〟を再編。従来の営業・管理部門とは別に、大学や産業界から若手の研究者や技術者を招き、市場動向や顧客ニーズなど時宜を得た話題をテーマに基礎技術研究の重要性を広く認識していただく。一方、産学技術交流推進部門では、産学で連携し実績をあげている技術相談や技術セミナーを積極展開していく」

トップインタビュー

産学官の交流を促進
出会いの場など　新たな試みも実施

大阪粉体工業展委員会　菅原 一博委員長

◁◀◁ ―粉体技術業界が直面している経済状況は。

「日本経済は実質GDPの上昇など景気好転を支える材料が徐々にそろいつつある。ただ、好況を実感できる分野は限定的と言える。それに東日本大震災の影響は残っており、国内全域での完全復活はこれからだろう。こうした状況にあって、粉体関連業界は総じて活力が出始め、新たな需要への設備投資も散見される。粉体技術は、既存産業から先端産業まで、広範に日本経済の基盤を支えている。持続発展の一翼を担うためにも一層の進化を果たすべきだと考える」

―大阪2013および開催規模は。

「〝粉づくり・ものづくり・夢づくり―粉の技術〟をメーンテーマに10月9日（水）から11日（金）の3日間、インテックス大阪1・2号館で開催される。日本粉体工業技術協会が推進する産学官による情報提供や最新の分析機器・装置、粉体技術が紹介される。出展状況は179社・団体、573小間が参画。その内、新規出展が35社75小間あり、全体の有料小間数で見ると前回展（11年度大阪展）を36・5小間上回る好調な状況だ。粉体工業展は毎年、東京と大阪で交互に開催されている。回を重ねるごとに市場や地域差だけでなく両展示会の特徴を効果的に発揮するようになった。出展各社も地域事情に応じた内容で積極展開している」

―開催の狙いと注目ポイントについて聞かせて下さい。

「今年度の粉体工業展大阪では産学官メンバーによる一層の交流を目指している。グローバル競争力が求められる昨今、企業はより高いレベルの製品開発力が重要な課題となっている。そこで大学のシーズをつかむきっかけづくりに、従来の併催事業『産学官連携フェアー2013（ニーズとシーズの出会い）』や『技術相談コーナー』をメーンに、『若手研究者と企業をつなぐ名刺交換会』および『ユーザーと粉体研究者の出会いの場』と称した新たな試みを実施する。企業は敷居が高い大学のイメージを払拭し、先生方も企業との距離が近づくことで市場動向や多様なニーズを知る。両者が思惑や価値観を共有してこそ新たな成果が得られる。今回の展示会では産学官連携によるオールジャパンの結束力を強調したい。さらに『東北地方応援企画』として、特別講演やシンポジウム、即売会ブースなどを企画、東北地域の復興支援を行う」

Smile QUICKNESS and CONVENIENCE
東洋ハイテック株式会社

粉体工業展大阪2013へ是非お越し下さい。　小間番号：2号館　2−04

お問い合わせは…本社　情報企画室　〒530-0028 大阪市北区万歳町3番20号(北大阪ビル) TEL(06)6312-2225 担当:金城
http://www.toyohi.co.jp